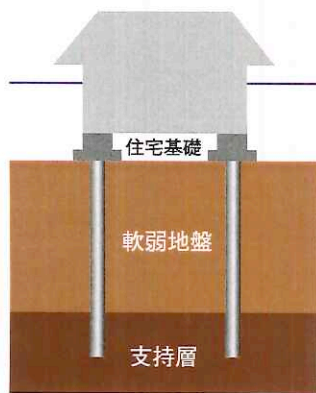
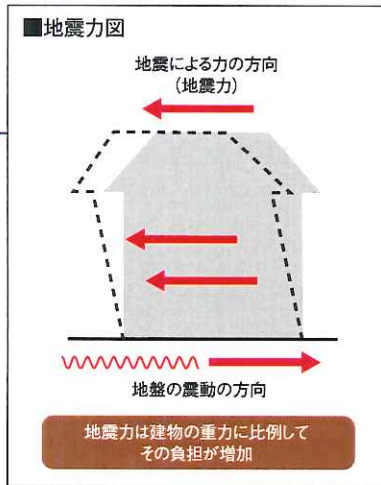


# 耐震性能

日本は、地震の多い国です。当然、長く安心して暮らす家に必要なものとして、耐震性は忘れてはならないこと。30年、50年と長く暮らす間に大地震にあう可能性を考えれば、建築基準法をクリアするだけでなく、地震に強い家であるための、あらゆる対策を講じています。

## 地震に強い家

地震は地下に震源を持つので、下から突き上げる力と建物を横に揺らす力が存在します。この、地震の時に建物に働く力を地震力と言います。下から突き上げる力は建物を横に揺らす力の1/2と言われており、そのため地震力は水平力として考えます。つまり、耐震性能を考える際に問題とするのは、横に揺らす力の影響です。水平力により破壊しないことが地震に強い建物といえます。また、建物の質量に比例して地震力(水平力)は大きくなります。上部全体の質量を考慮して建物の各階ごとに耐力を検討します。建物は軽く、低く、壁の多いものほど地震に強くなります。ソルヴィエント大倉山の全戸は、設計時に構造設計者が建築関連規定によって建物が安全であることを確認しています。



## 地耐力調査 / 地盤改良

建物の耐久性において、最も重要なポイントは、地盤。地盤が建物の荷重に耐え切れないと、地震などに襲われる前に、家は自分の重さで傾き、崩壊してしまうことになります。地耐力とは、地盤が荷重に耐えうる力のことで、この力の違いによって基礎工事のやり方も変わります。ソルヴィエント大倉山では、まず地盤の強さをしっかりと把握し、地盤改良は「鋼管杭工法」を採用しました。この改良法は、螺旋状の翼部品が接合された鋼管を回転することによって地盤中に貫入させ、支持層に確実に打ち止めることで支持力を得るといって、地耐力を大きく高める工法です。そのメカニズムは、住宅基礎が受ける荷重は基礎直下の地面ではなく、深部の支持層に伝えて住宅を頑強に支えるというもの。地震や液状化現象に対し究めて効果の高い工法であることで知られています。

## ベタ基礎

基礎は、建物地面を強固に固定する重責を担っています。ベタ基礎とは、建物下の地盤全体に鉄筋を緊密に配筋し、そこにコンクリートを流し込んで固める強靱な基礎。地盤に施工された鉄筋コンクリート面全体で建物を支える構造になっているため、地震や台風などの衝撃を効果的に地盤へ逃がすことができる構造なのです。



## 安心の地盤保証システム

ソルヴィエント大倉山では、公正かつ厳密な調査を誇る第三者機関(地盤保障会社)による地盤保障システムを採用しています。これは、万一地盤の不同沈下により建物の不具合が発生した場合には、お引渡し日より10年間保証されるシステムで、建物の補修費用や、補修工事期間に必要な仮住まい費用が保証されます。

